



広島県竹原市との広報誌交流（第5回） ～歴史と文化財でコミュニケーション～



余市町は令和5年10月に広島県竹原市と交流都市提携を締結しました。両市町の交流を促進するため、広報誌でそれぞれの歴史・文化財を紹介しています。令和7年度は、竹原市の偉人を紹介してもらいます。第5回は陶芸家の今井政之です。

今井政之（1930－2023）は、大阪市に生まれ、13歳からの少年時代を父の故郷である竹原市で過ごします。竹原工業学校（現在の広島県立竹原高等学校）金属工業科に入学し、翌年には三井金属竹原製煉所へ配属され、釉薬の基本となる金属について学びます。その後5年にわたり岡山の備前で釉薬や陶土の研究を行います。昭和27（1952）年に京都に活動の場を移した今井は、陶芸の技術を磨き、翌年第9回日展で初入選を果たします。以後、今井は日展での受賞を重ね、日本藝術院会員、日展名譽顧問などの要職を歴任し、文化功労者に選ばれます。さらに平成24（2012）年、竹原市の名誉市民となり、平成30（2018）年、広島県で陶芸家として初めての文化勲章を受章しました。

平成28（2016）年、現職のアメリカ大統領として初めてオバマ大統領が原子爆弾が投下された広島を訪問した際、広島県知事からオバマ大統領へ今井政之の作品が贈られました。それは「核兵器のない世界」を訴えたオバマ氏の演説に感銘を受けて制作した、原爆ドームや鶴を題材とした面象嵌の陶額でした。今井は「平和を築いて初めて、芸術に専念できる」という強い信念を持ち、平和への願いを込め制作をしてきました。

今井は土そのものの味わいを最大限に表現することを生涯追求し、創作の中で「面象嵌」という技法に行きつきます。面象嵌とは、土台となる広い土の面に、線や面でモチーフを彫り、そこに別の色の土を嵌め込むものです。土は高温になると収縮するという性質があり、かつ収縮率が土によって違うため、嵌め込んだ違う種類の土を同時に焼いて制作すると、ひびが入ることがあります。象嵌のなかでも面象嵌は嵌め込む範囲が広いため、特に難しい技術が必要でしたが、今井は土と窯の温度調整の研究を長期間行い、ついに昭和44（1969）年、異なる土による面象嵌の制作を実現させます。そして昭和53（1978）年、故郷の竹原に自身で「竹原豊山窯」を築き、窯変により象嵌技法の美しさを引き出すことに成功しました。

竹原で海に囲まれて少年時代を過ごした今井は、釣りを楽しみ、海の生き物に身近に触れ愛着を抱き、それらを象嵌技法で表現しています。とりわけ虎魚は度々登場し、野趣あふれる面構えが印象的なモチーフです。本人によると、「だんだん私の顔に似てきて、今では私の代名詞になるくらいのモチーフになっている」といいます。作品『悠久の貌』は、悠久に生きようとする生命力と、今井の悠久の平和への想いが感じられます。

このように今井は一貫して土などの自然の素材や質感を生かした技法に挑戦し、芸術は他者からの継承ではなく、自らが創造するものだという「芸術は一代限り」という信念のもと、制作を行ってきました。瀬戸内海の魚や動植物などのモチーフの作品からは、その信念を見て取ることができます。

（竹原市教育委員会 文化生涯学習課 文化財保護係）

問合せ 社会教育課 文化財係 ☎ 22-6187



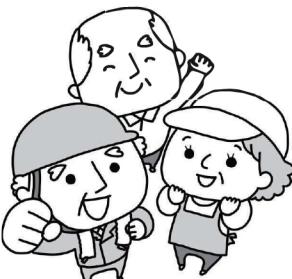
▲ 今井政之



▲ 虎魚をモチーフにした作品
『悠久の貌』

広
告

公益社団法人 余市町シルバー人材センター



会員募集中

- 余市町内在住の方
- シルバー人材センターの趣旨に賛同する
おおむね60歳以上の健康で働く意欲のある方
- 入会説明を受け、入会申込みを提出した方
- 定められた年会費を納入した方



会員登録や
お仕事の依頼などの
お問合せ・お申込み

〒046-0003
余市町黒川町5-22
TEL (0135) 22-7641
FAX (0135) 22-7642